

いずみさの昔と今 第366回

「政基公旅引付」にみる端午の節句

5月5日は男の子の成長を祝う「端午の節句」です。現在はこどもの日として祝いますが、これは戦後に制定されたものです。

端午の節句は古代中国に由来するもので、日本に伝わったのは奈良時代のこととされています。この日について連想するものといえば、五月人形・鯉のぼり・ちまき・菖蒲湯などが思い浮かぶのではないでしょう。このうち古い形にちなむものは、ちまきと菖蒲湯の二つです。五月人形は江戸時代に武士の家で鎧や兜を飾る風習があったものが庶民に広がり人形飾りとして発展しました。鯉のぼりもまた江戸時代に武士のぼり旗を飾っていたものに由来します。

さて、日根荘の領主九条政基の日記「政基公旅引付」にも、日根荘内でおこなった端午の節句の様子が描かれています。これは江戸時代以前の節句の様子を記した貴重な記述といえます。文亀元（1501）年の5月4日には翌日の節句の準備のため、村の有力者に命じて、自身が滞在している長福寺（入山田村）内の宿所の軒に菖

蒲を葺かせています。葺くとはいつても、屋根全体を覆うわけではなく、軒に菖蒲を飾るものであったと考えられます。これは宮中などでもおこなわれていたもので、邪気を払い火災を防ぐという意味合いがあったとされています。また、翌日の節句用に、ちまきの準備を部下に命じています。

5月5日の記述は文亀2（1502）年の方が詳しいので、そちらの記述を元に見ていきます。まず九条家の荘園経営の拠点である無辺光院（日根野村）の僧侶からちまきと酒が送られ、それに対し政基は持つてきた僧侶を褒めています。その後、番頭（村役のトップ）が政基のもとにやって来て、政基側は酒を振る舞っています。なお、文亀3（1503）年の記事には、無辺光院の僧侶が5日に参上することが叶わないために、4日にちまきと酒を送っています。無辺光院の僧侶もちまきと酒を持つて参上することが、行事の一つとなっていたと考えられます。

ただし、これらの行事は政基が当地に来る以前から同様におこなわれていたわけではないようです。文亀元年5月4日に長福寺内の宿所の軒に菖蒲を葺かせたことは先に触れましたが、この際に「寺院ではあるが政基が滞在しているから菖蒲を葺くのである」とわざわざ記しています。つまり、寺院で菖蒲を葺くことは通常はおこなわれないうところ、政基はあえて長福寺でこれをおこないました。その理由の一つとしては、政基の都への強い思いが考えられます。文亀元年5月4日に政基は「山里も我すむ軒のあやめ草けふは都の心ちこそすれ」（さびしい山里に住む私の家も菖蒲を軒に飾ったので、今日ばかりは雅な都にいる心地がする）という和歌を詠んでいます。つまり政基にとつての葺かれた菖蒲は、都にいたときのことを思い出せるものだったのです。

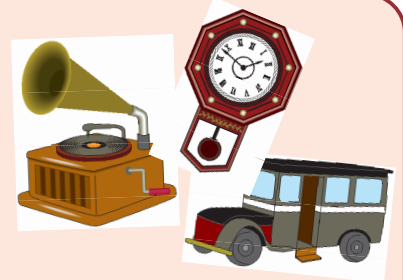
うです。文亀元年5月4日に長福寺内の宿所の軒に菖蒲を葺かせたことは先に触れましたが、この際に「寺院ではあるが政基が滞在しているから菖蒲を葺くのである」とわざわざ記しています。つまり、寺院で菖蒲を葺くことは通常はおこなわれないうところ、政基はあえて長福寺でこれをおこないました。その理由の一つとしては、政基の都への強い思いが考えられます。文亀元年5月4日に政基は「山里も我すむ軒のあやめ草けふは都の心ちこそすれ」（さびしい山里に住む私の家も菖蒲を軒に飾ったので、今日ばかりは雅な都にいる心地がする）という和歌を詠んでいます。つまり政基にとつての葺かれた菖蒲は、都にいたときのことを思い出せるものだったのです。

レイクアルスタープラザ・
カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌平日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

②4 学校シリーズ(4) 日新小学校



▲昭和30年ごろの日新小学校。日新小学校は明治6年に創立されました。



▼昭和47年ごろの日新小学校。昭和33年に鉄筋コンクリート建講堂が、昭和45年には鉄筋3階建校舎が竣工しました。



▲現在の日新小学校の様子。新たに体育館やプールもできています。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！